

＼ 文化財の内部まですべて見せます ＼
盾持人物埴輪をはじめ3点の3Dモデルを公開

本庄市マスコット「はにぼん」のモデルになった盾持人物埴輪をはじめ、貴重な文化財3点を3Dスキャンとフォトグラメトリーにより3Dモデル化。埴輪の内部や土器の底部まで、通常では見られない姿を見られるようになりました。



コンセプト

デジタルならではの技術を用いて、実物資料の見学のみでは得られない体験を！

ミュージアムにおける展示鑑賞の醍醐味は、先人たちの残した文化財（実物資料）を生で見ることができる点にあります。資料の特性や保存上の観点から裏側や内部を自由に覗くことは困難な場合がほとんどです。しかし、普段見られない資料の内部には、製作時の痕跡が残されており、先人たちのものづくりの過程を窺い知ることができます。デジタルだからこそ可能となる可視化を図ることで、実物資料の見学のみでは得られない体験を見学者に提供します。

3Dモデルをきっかけに新たな文化財ファンの獲得を目指す！

実物資料の鑑賞と併せて、デジタル技術を活用したコンテンツを提供することで、文化財の魅力を発信するとともに、知的好奇心を喚起し、より深く理解するための一助とします。さらに、3Dモデルという新たなアプローチで文化財を見せることは、これまで文化財に関心のなかった層に魅力を伝えるきっかけになります。また、学校教育においては、館内に限らず、見学に伴う事前・事後の学習や社会科等の授業において活用することで、児童・生徒が本庄市の歴史をはじめ、製作当時の暮らしやものづくりに関心を持ち、理解を深めやすくする機会を創出することもできます。

3Dデータ化のメリット

- ・通常では見ることのできない部位、角度、距離での鑑賞が可能になります。
- ・文化財の現状を正確に記録でき、レプリカの制作や災害等で被災した場合の復旧にも活用できます。

今回3Dモデル化した文化財

盾持人物埴輪／前の山古墳出土

本庄市マスコット「はにぼん」のモデルとなった埴輪で、古墳を守るガードマン的な役割を担った埴輪です。普段では見られない埴輪の内側にも注目してください。

女子人物埴輪／せきね古墳出土

埴輪製作の秘密を探ることができる3Dモデルです。腕のつけ方をはじめ、埴輪の内側に残された製作時の痕跡をぜひご覧ください。

縄文土器／新宮遺跡出土

全長70センチを超える巨大な縄文土器で、粘土紐のリングや渦巻を複雑に組み合わせた突起が特徴です。展示室では見られない底面や内面はもちろん、色々な角度からじっくり観察できます。

【同時公開】3DCG動画で見る<巨大>縄文土器

土器片の状態から復元された状態に組み上がるまでのモーショングラフィックスと復元品の3DCG動画をYouTube「本庄市広報チャンネル」で公開します。

公開方法

以下のURLからご覧いただけます。

- ・専用アプリのダウンロードやアカウント登録は不要です。
- ・データ通信量が大きいため、Wi-Fi環境での利用を推奨します。

< sketchfab > 【公式】本庄市文化財保護課

URL https://sketchfab.com/honjo_bunkazai

< YouTube > 本庄市広報チャンネル

URL <https://www.youtube.com/@user-dj6y15qt7n>



sketchfab

公開開始日 4月24日（水）

○その他

- ・今回公開する3Dモデル及び3DCG動画は、埼玉県ふるさと創造資金の補助を受けて制作したものです。

問合せ先

- 本件記事に関すること 本庄市教育委員会事務局 文化財保護課 担当：松橋
電話：0495（71）6878
- 広報全般に関すること 企画財政部 広報課 担当：飯塚
電話：0495（25）1155